Express5800/SG300e

はじめにお読みください

NEC

Startup Guide

スタートアップガイド

856-126855-002-00　2007年4月　初版

箱を開けてから本装置の初期設定を完了するまでの手順を説明します。このスタートアップガイドに従って作業してください。

⚠ 安全に関するご注意

装置をセットアップする前に「ユーザーズガイド」の「使用上のご注意 -必ずお読みください-」をお読みの上、注意事項を守って正しくセットアップしてください。

⚠ 警告

- ぬれた手で電源プラグの抜き差しをしないでください。感電するおそれがあります。
- 内蔵型オプションの取り付け・取り外しは電源コードをコンセントから抜いて行ってください。
- 雷が鳴りだしたらケーブル類を含め装置に触らないでください。落雷による感電のおそれがあります。
- 「ユーザーズガイド」に記載されている内容を除き、分解・修理・改造を行わないでください。

⚠ 注意

- 持ち運びの際は2人以上で装置の底面をしっかりと持って運んでください。
- 水、湿気、ほこり、油、煙の多い場所、また直射日光の当たる場所に設置しないでください。
- 装置に添付されている電源コード以外を使用しないでください。
- 電源コードは指定の電圧、コンセントに接続してください。
- 電源コードはタコ足配線にしないでください。

1 添付品を確認する

梱包箱を開け、添付品がそろっていることを確認してください(ご注文の構成により、下記以外の添付品が同梱されている場合があります)。

- 本体
- 電源コード
- フロントベゼル
- セキュリティキー(フロントベゼル内側に貼り付けられています)
- ラック搭載用取り付け部品(ステップ4を参照)
- ソフトウェアパッケージ一式(バックアップCD-ROM含む)
- EXPRESSBUILDER CD-ROM*
- SystemGlobe DianaScope Additional Server Licence(1)(DianaScopeのライセンス)
- お客様登録申込書
- 保証書(本体梱包箱に貼り付けられています)
- 使用上のご注意
- スタートアップガイド(本書)

重要　**添付のCD-ROMは、再セットアップの時に必要となりますので大切に保管しておいてください。**

* EXPRESSBUILDER CD-ROMの中には「ユーザーズガイド」や各種オンラインドキュメントも格納されています。ユーザーズガイドやオンラインドキュメントはAdobe Readerで閲覧できるPDFファイルです。

2 ユーザーズガイドを読む

ユーザーズガイドはバックアップCD-ROMの中に格納されています。ユーザーズガイドはAdobe Readerで閲覧できるPDFファイルで、次のHTMLファイルから表示させることができます。

<バックアップCD-ROM>:/manual.html

ユーザーズガイドでは、本装置を安全に取り扱うための注意事項や*Startup Guide*では記載されていないセットアップに関する詳細な説明、運用やアップグレードに関する説明が記載されています。また、「故障かな？」と思ったときのトラブル回避の手段やサービスに関する情報も記載されています。本装置を取り扱う前にぜひお読みください。

ヒント　PDFファイルを閲覧するためには、Adobe Reader 日本語版が必要です。Adobe Readerはアドビ社のWebサイトから無償でダウンロードすることができます(http://www.adobe.co.jp)。

製本されたユーザーズガイドが必要な場合は、もよりの販売店、またはお買い求めの販売店にお問い合わせください。また、ユーザーズガイドは、NECのWebサイトからダウンロードすることができます(http://nec8.com/ → [サポート情報]をクリックしてください)。

3 ラックを設置する

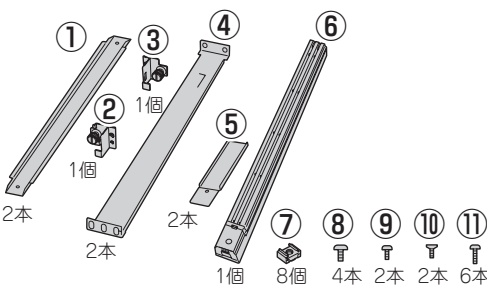
本体はEIA規格に適合した19型(インチ)ラックに設置して使用します。ラックに設置する場合は、次の条件を守ってラックを設置してください。

重要　**ラックの設置は必ず複数名で行ってください。**

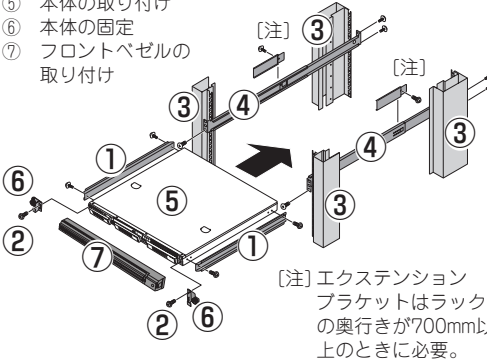
4 本体を設置する

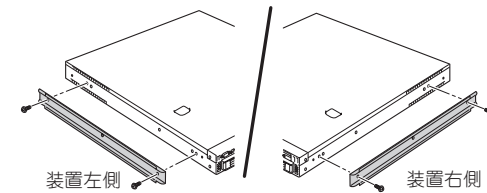
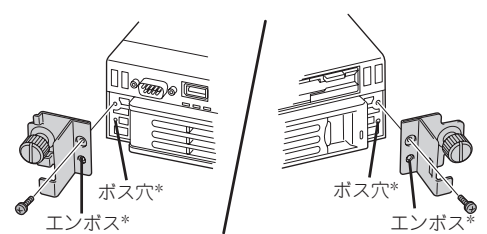
本体を卓上またはEIA規格に適合した19型(インチ)ラックに設置します。(プラスドライバ・マイナスドライバが必要)

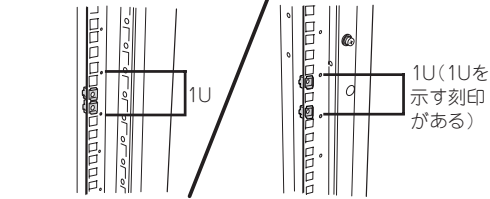
取り付け部品の確認

① マウントブラケット
② マウントホルダー(L)
③ マウントホルダー(R)
④ サポートブラケット
⑤ エクステンションブラケット
⑥ フロントベゼル
⑦ コアナット
⑧ ネジA(M4, 6mm)
⑨ ネジB(M3, 6mm)
⑩ ネジC(皿ネジ, M3, 6mm)
⑪ ネジD(M5, 10mm)

作業の流れ

① マウントブラケットの取り付け
② マウントホルダーの取り付け
③ コアナットの取り付け
④ サポートブラケットの取り付け
⑤ 本体の取り付け
⑥ 本体の固定
⑦ フロントベゼルの取り付け

[注] エクステンションブラケットはラックの奥行きが700mm以上のときに必要。

重要　**ラックの設置や本体の取り付けは必ず複数名で行ってください。**

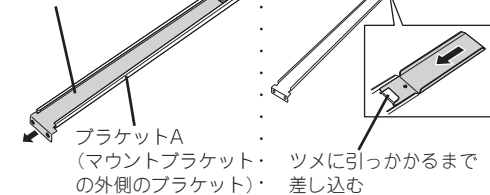
1 マウントブラケットのネジ穴と本体側面のネジ穴を合わせ、ネジA(各2本)で固定する。

2 ネジB(各1本)でマウントホルダーを取り付ける。

* それぞれのエンボスをボス穴にはめ込んでください。

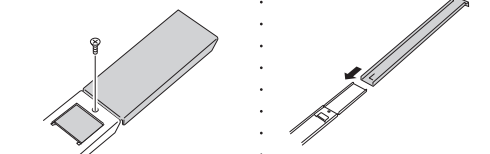
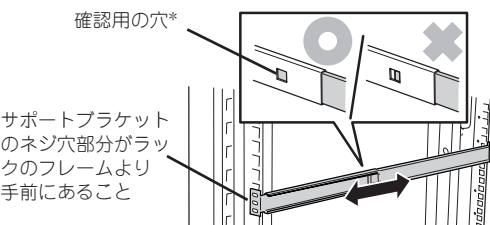
3 本体を取り付ける位置(高さ)を確認してからコアナットをラックフレームのスロット(角穴)に取り付ける(前面/背面とも片側に2個ずつ)。

* コアナットはラック内側からマイナスドライバなどでコアナットのクリップをスロットに引っかけてください。

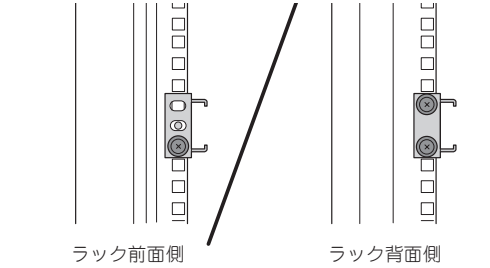
4 <ラックの奥行きが700mm以上の場合のみ>

① マウントブラケットを引き延ばし、分解する。

② エクステンションブラケットをブラケットBに差し込む。

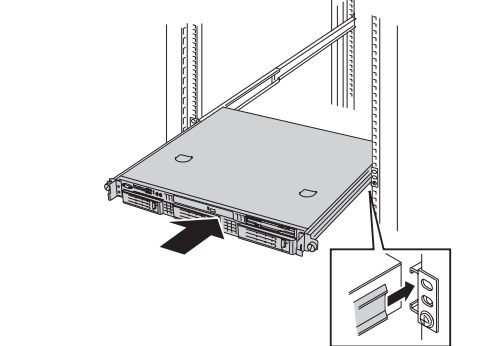
ツメに引っかかるまで差し込む

③ エクステンションブラケットをネジC(1本)で固定する。

④ ブラケットAをエクステンションブラケットに差し込む。

5 コアナットを取り付けた位置にサポートブラケット前後のフレームを合わせる。

* サポートブラケットの連結部分にある穴がもう一方のサポートブラケットでふさがれていることを確認してください。少しでも隙間がある場合は、エクステンションブラケットを取り付けてください。隙間が見える状態ではサポートブラケットの連結部分の強度が維持できません。力が加わると連結部分が外れてしまうおそれがあります。

6 サポートブラケットを支えながらネジD(左右各3本)で固定する。

- コアナットのネジ穴がサポートブラケットのネジ穴の中央に位置するように固定してください。
- 装置を搭載したときに上下に搭載されている装置とぶつかる場合は、取り付け位置の調整が必要になります。

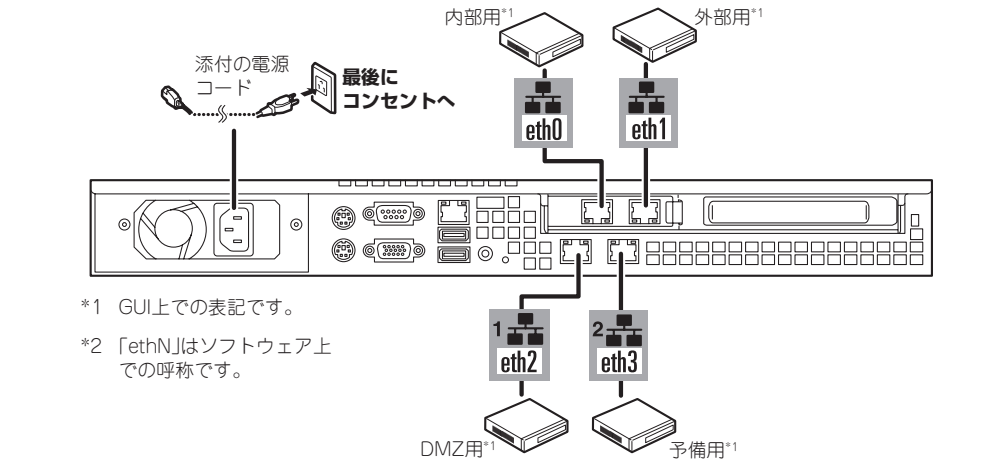
7 本体前面が手前になるように持ち、本体側面のマウントブラケットをサポートブラケットに差し込む。

- 取り付けは1人でもできますが、なるべく複数名で行うことをお勧めします。
- 本体の上下に搭載されている装置とぶつかる場合は、いったん本体を取り出して、サポートブラケットの固定位置を調整してください。

8 本体の前面をゆっくりと押してラックへ完全に押し込み、セットスクリューでラックに固定する。

5 ケーブルを接続する

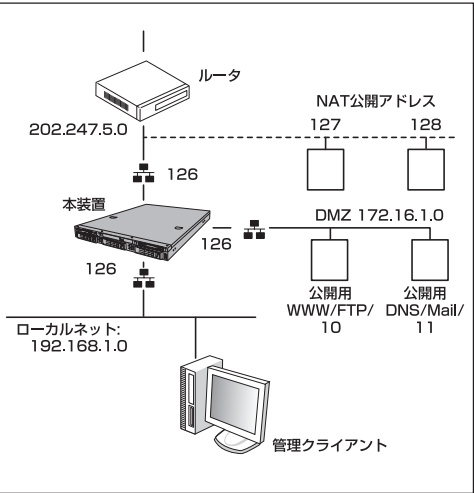
本体背面にLANケーブルを接続した後、添付の電源コードを接続します。ユーザーズガイドの2章を参照してください。

重要
- **シリアルポートコネクタには専用回線を直接接続することはできません。**
- **PCIスロットに搭載されているLANボードに接続したケーブルを抜くときは、コネクタのツメが手では押しにくくなっているため、マイナスドライバなどを使用してツメを押して抜いてください。その際に、マイナスドライバなどがLANポートやその他のポートを破損しないよう十分に注意してください。**

*1 GUI上での表記です。
*2 「ethN」はソフトウェア上での呼称です。

引き続きシステムのセットアップをします。裏面をご覧ください。

6 インストール/初期導入設定用ディスクを作成する

本装置をネットワークに接続するために必要な設定情報が保存されたディスクを作成します。添付の「インストール/初期導入設定用ディスク」とWindows XP/2000、またはWindows NT 4.0、Windows 98が動作するコンピュータを用意してください。詳しくはユーザーズガイドの3章「インストール/初期導入設定用ディスクによる設定」を参照してください。

ここでは以下のネットワーク構成での設定例を示します。

1. Windowsマシンを起動し、添付の「インストール/初期導入設定用ディスク」をフロッピーディスクドライブにセットする。

   インストール/初期導入設定用ディスクはライトプロテクトされていない状態にしてください。

2. フロッピーディスクドライブ内の「初期導入設定ツール(StartupConf.exe)」を起動する。

   初期導入設定ツールが起動します。ツールはウィザード形式で進みます。入力した内容が間違っている場合は、警告メッセージに従って入力内容を確認・修正してください。

3. [次へ]をクリックする。

4. ネットワークインタフェースを設定する(内部/外部ポートについてはステップ5を参照)。

   このシートの設定項目はすべて入力必須です。

5. 非武装地帯(DMZ)を構成するネットワークと予備用のネットワークの設定をする(ここでは画面イメージを省略します)。

6. ルーティングを設定する。

   [デフォルトゲートウェイ]は入力必須です。

7. ネームサーバとNTPサーバの設定をする(ここでは画面イメージを省略します)。

8. 管理者のメールアドレスとリモートメンテナンスの設定をする。

   [管理者のメールアドレス]は入力必須です。

9. Management Consoleに関する設定をする。

   このシートの設定項目はすべて入力必須です。

   パスワードの入力の際は、タイプミスのないように注意して入力してください。

10. セキュアシェル(SSH)に関する設定をする。

    SSHを使用してシステムに接続する場合に設定します。パスワードの入力の際は、タイプミスのないように注意して入力してください。

11. Express5800/SG300に接続できる管理クライアントの設定をする。

    [接続元1 IPアドレス]は入力必須です。

12. 二重化構成の使用有無を選択する(ここでは画面イメージを省略します)。

    二重化の構築については「ユーザーズガイド」を参照してください。

13. ライセンスキーとサポートキーを入力する(ここでは画面イメージを省略します)。

    最低1つのライセンスキーを入力しておかないとファイアウォール機能を利用できません。

すべての入力が完了したら、設定した内容がインストール/初期導入設定用ディスクに書き込まれます。設定完了のメッセージが表示されるまでフロッピーディスクドライブから取り出さないでください。

7 初期導入設定情報をロードする

インストール/初期導入設定用ディスクの内容を本体にロードして初期セットアップをします。詳しくはユーザーズガイドの3章「インストール/初期導入設定用ディスクによる設定」を参照してください。インストール/初期導入設定用ディスクは再セットアップの際にも使用します。セットアップの完了後も大切に保管してください。

1. ステップ6で作成したインストール/初期導入設定用ディスクがライトプロテクトされていないことを確認して、本体のフロッピーディスクドライブにセットする。

2. 本体の電源をONにする。

   セットアップを開始します。2〜3分ほどで完了します。

   POWERランプ　POWERスイッチ

3. フロッピーディスクドライブのアクセスランプが消灯していることを確認して、インストール/初期導入設定用ディスクを取り出す。

セットアップに失敗した場合は自動的に電源がOFF(POWERランプ消灯)になります。その場合は、Windowsの「メモ帳」などを使ってインストール/初期導入設定用ディスクに書き出されるログファイル「logging.txt」を開いてエラーメッセージを確認し、トラブルの解決を試みてください。

エラーメッセージの意味については、ユーザーズガイドの3章「システムのセットアップ」―「セットアップに失敗した場合」を参照してください。

8 システムにログインして、基本設定をチェックする

管理クライアントからシステムへ接続し、基本設定の確認と変更をします。詳細は、3章「システムの基本設定」を参照してください。

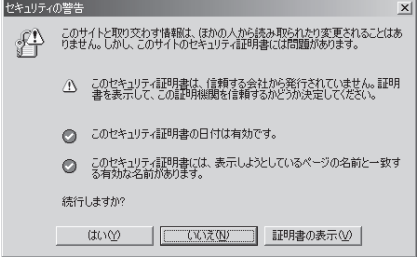
1. 本体と同じ内部ネットワークにある管理クライアントを起動する。

2. 管理クライアントからWebブラウザを起動する。

   WebブラウザはInternet Explorer 6 SP1(日本語版・Windows版)以上を使用してください。

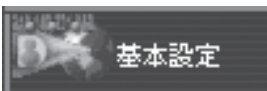
3. URLに「https://nnn.nnn.nnn.nnn:mmmm/」と入力する。

   nnn.nnn.nnn.nnnは本体の内部ネットワークに割り当てたIPアドレスです。mmmmには初期導入設定ツールで設定したポート番号を入力してください。

4. セキュリティの警告画面で[はい]をクリックする。

5. ステップ6のManagement Consoleに関する設定で入力した管理者アカウント名とパスワードを入力し、ログインする。

6. [システム管理者ログイン]をクリックする。

   Management Console
   for System Administrator
   NEC Copyright(C) NEC Corporation 2000-2007

7. Management Consoleのトップ画面左にあるメニューから[基本設定]をクリックする。

8. 表示内容を確認、または変更して[設定]をクリックする。

9. [戻る]をクリックする。

   操作結果通知でシステムの再起動の指示があった場合は、Management Consoleのトップ画面左にあるメニューから[システム]→[システムの再起動]→[即再起動]の順にクリックして再起動ください。

9 ライセンスとサポートサービスの登録をする

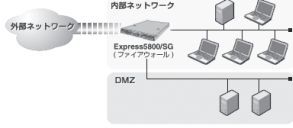
詳細な手順は、3章の「セキュリティポリシーのセットアップ」で説明しています。ステップ6の手順13でライセンスキーとサポートキーの登録を行っていない場合は、はじめにライセンスの登録を行います。ライセンスキー、サポートキーの取得については1章の「ライセンスキー」および「ソフトウェアサポートサービス」を参照してください。

Management Consoleのトップ画面左にあるメニューから[ファイアウォール]をクリックし、「ファイアウォール」メニューでライセンスの[確認/登録]をクリックします。表示された画面でライセンスキーまたはサポートキーをそれぞれ入力して、[登録]をクリックしてください。

ライセンス
確認/登録

10 セキュリティポリシーを作る

「かんたん設定ウィザード」を使ってセキュリティポリシーを作成します(必ず1度実行してください)。詳しくは、ユーザーズガイドの3章の「セキュリティポリシーのセットアップ」で説明しています。

Management Consoleのトップ画面左にあるメニューから[ファイアウォール]をクリックし、「ファイアウォール」メニューで[かんたん設定]をクリックします。表示された画面でウィザード形式にポリシーを登録していきます。[次へ]で先に進みます。[戻る]で1つ前に戻れます。

ルール設定
かんたん設定　詳細設定

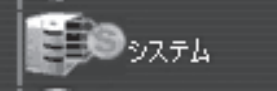
ポリシーの作成後、同様に「ファイアウォール」メニューの[ルール設定]で[詳細設定]をクリックすると、作成したポリシーについてより詳細な設定をすることができます。詳細設定の説明については、4章で詳しく説明しています。

11 バックアップを取得する

ここまでで設定したシステムの基本設定とセキュリティポリシーのバックアップを取得します。詳しくは、ユーザーズガイドの3章の「バックアップ」を参照してください。

システム基本設定

[システム]アイコンをクリックして、「その他」から[バックアップ/リストア]をクリックしてください。

セキュリティポリシー

[ファイアウォール]アイコンをクリックして、「システムメンテナンス」から[バックアップ/リストア]をクリックしてください。

12 残りのタスクを完了させる

ユーザーズガイドの5章を参照して以下のタスクを完了させてください。

- ESMPRO/ServerAgentのセットアップ
- 管理コンピュータのセットアップ

以上で完了です。